

遅くなりましたが、橋梁課の令和2年度活動実績を報告いたします。

1. 船場高架橋が土木学会 選奨土木遺産に認定されました！

令和2年9月、「土木学会 選奨土木遺産」に『ビル・高架道路・地下鉄駅の一体整備』の一部として本市の管理する船場高架橋（大阪市道築港深江線）（中央区船場中央1丁目～4丁目）が認定されました。



▲御堂筋をまたぐ高架橋

土木学会 選奨土木遺産とは
歴史的土木構造物の保存に資することを
目的として、
平成12年に認定制度が設立された。
推薦および一般公募により
年間20件程度が選出されている。

船場高架橋は昭和45年(1970年)に完成した高架橋であり、小規模な専門卸売店が密集する船場地区において、店舗ビルと高架道路(高速道・一般道)・地下鉄駅を一体整備するという斬新なアイデアが評価されました。

一体整備部分の延長はおよそ930mにもおよび、一体整備とすることにより、①用地の効率的な利用、②建設費用削減、③道路による商業地の分断を防ぐ、などのメリットが得られました。

また、大阪市の管理橋梁では、他に本町橋、天神橋、淀屋橋、平野橋など8橋が「土木学会 選奨土木遺産」に認定されています。

【公益財団 土木学会 HP リンク先】

[JSCE 公益社団法人 土木学会 https://www.jsce.or.jp/](https://www.jsce.or.jp/)

2. 阪堺大橋の改良工事が完了しました。

平成 27 年から実施していた阪堺大橋の改良工事が令和 2 年 10 月に完了しました。阪堺大橋は大和川を跨ぎ、大阪の臨海地域を南北に結ぶ重要な幹線道路であるため、大型車両の交通量が非常に多くなっています。建設から 30 年以上が経過していることもあり、点検において、鋼床版（橋の床面）等に損傷がみられたことから、損傷の進行を抑えるために、鋼床版に補強のための鋼板を設置する工事を実施することとなりました。

社会経済活動に与える影響を考慮し、工事期間が短くなるように、工事中は終日 1 車線固定規制による施工としました。工事実施にあたっては、実施時期や迂回情報を、広報やラジオ、HP 等を活用し、事前に広く市民の皆様にお知らせさせていただきました。おかげさまで、市民の皆様や関係機関のご理解・ご協力を得ることができ、安全かつ円滑に工事を実施することができました。本当にありがとうございました。

また、橋への影響が最小限となるよう、大阪市立大学の山口隆司教授に多くのアドバイスやご指導をいただきました。改めてお礼申し上げます。

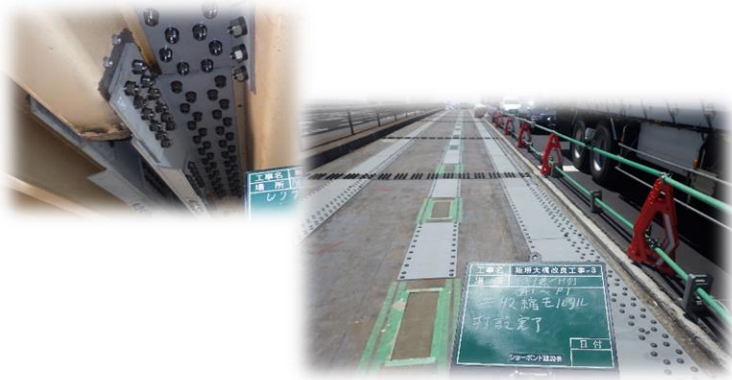
今後も市民のみなさまの安全・安心を確保できるよう、計画的な橋の架け替えや補修などを進めて参りたいと思いません。



▲全景



▲位置図



▲施工状況

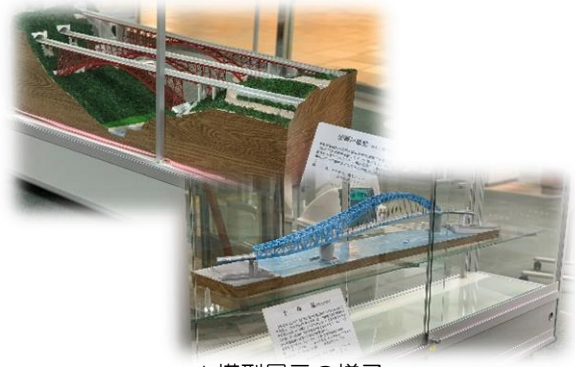
3. 橋の広報活動を実施しました。

令和2年11月5日、大阪市立難波市民学習センターとの協働で、ネットワーク型市民セミナー〈なにわ八百八橋物語～橋に見る大阪の再発見〉を開催しました。毎年、講座・現地見学・パネル展などを行っておりますが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、定員を縮小して開催することになりました。当日は午前には講座、午後には現地見学を行いました。講座では大阪市内の橋の歴史や役割、構造、現在の橋梁事業等について講演させていただき、現地見学では中之島周辺に架かる橋（淀屋橋～天満橋）を歩いて巡り、それぞれの橋の歴史や特徴についての説明をさせていただきました。

また、令和元年に引き続き、趣味で橋の模型を製作されている堺市在住の吉川様にご協力いただき、吉川様が作製された千歳橋、皆瀬川橋梁の模型展示も行いました。毎回、精巧で、緻密なものを提供いただき、改めてお礼申し上げます。



▲講座の様子



▲模型展示の様子

また、11月21日・22日には、鶴見緑地において花博開催30周年記念イベントが開催され、橋梁課においても、ブースを設置し、大阪の橋のライトアップや橋のコラムについて触れた浪華八百八橋展示を実施しました。多くの来園者が行き交う場所への設置となったため、橋梁事業について、多数の方の目に触れる機会となりました。



▲ブース設置状況

その他、令和元年に引き続き、令和2年10月24・25日に、「生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪(通称：イケフェス大阪)」にも参加しました。イケフェス大阪は、毎年秋の週末に大阪の魅力的な建築を一斉に無料公開する日本最大級の建築イベントです。令和元年は現地見学会を実施しましたが、令和2年については、新型コロナウイルスの影響で残念ながらHP上でのバーチャル開催のみとなりました。

【生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 HP リンク先】

<https://ikenchiku.jp/>

すべての活動において、日頃、何気なく渡っている橋にもそれぞれ歴史や特徴があることを知っていただき、橋への興味・関心を深めていただくことができたかと思えます。今後も多くの方々が橋の情報に触れていただけるよう、広報に努めてまいります。

◇vol.8 難波橋（なにわばし）◇

橋コラム

難波橋は、土佐堀川・堂島川にかかる橋で、江戸時代は、天神橋・天満橋とともに浪華三大橋とよばれる「大坂の八百八橋」を代表する長大橋でした。難波橋が公儀橋となったのは天神橋と同じく、寛文元年(1661)のことといわれています。反りのあった難波橋からの眺望は、特に優れ、周辺の16橋や遠くの山々を眺めることができ、橋の上は花火見物や夕涼みなどの一等栈敷となり、上方文化を育む絶好の行楽地として、夕涼み、舟遊び、花火見物などの人々でたいそうにぎわっていたようです。木橋であった頃は、大川の洪水により幾度となく被害を受けましたが、明治9年(1876)架け替えの際、北側部分が鉄橋化され、近代橋梁のあけぼのとなりました。大正4年(1915)市電事業により、堺筋より一つ西側の筋から堺筋に移設されるに伴い、中之島公園と一体となった都市景観の創造が図られ、構造は重厚なアーチ式となり、市章を組み込んだ高欄、華麗な照明灯、親柱上のライオン彫刻、さらに公園へ降りる広い石造りの階段など、最大限の意匠設計が施されました。

また、橋詰の4箇所には堂々たるライオン像が設置されたことから、「ライオン橋」の愛称で、現在も市民に親しまれています。昭和50年(1975)合成桁形式に替えられましたが、旧来の姿を保全するように配慮され、当時の雄姿を今に残しています。

今回初めて橋コラムを担当するにあたって、私が橋梁課に異動してきて初めて覚えた難波橋を選んでみました。調べてみると、難波橋は、平成20年度に実施した市政モニターアンケートの「市民が魅力を感じている橋」で1位を獲得し、以降、市民セミナー実施時に行っているアンケートの「好きな橋・魅力的な橋のランキング」でも継続して1位を獲得している人気の橋と知りました。

まだ実物を見られていない方は、ぜひ一度足を運んでみてください。



▲全景



▲頭彰碑

ライオン像▶



好きな橋・魅力的な橋ベスト 10

有効回答者数：18名

(一人3橋まで回答可)

令和2年11月にアンケート実施

市民セミナーに参加された皆様にご協力いただいたアンケートを基に、好きな橋・魅力的な橋のランキングを作成しました。

1位 難波橋



2位 水晶橋

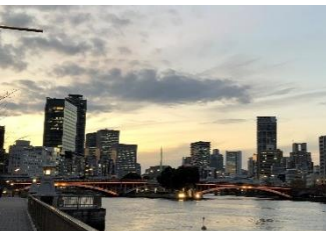


3位 港大橋



同率4位 (6橋)

天神橋



菅原城北大橋



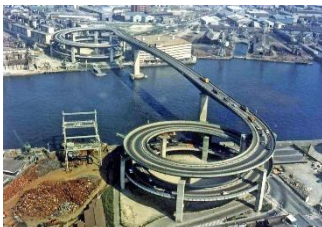
本町橋



天満橋



千本松大橋



淀屋橋



惜しくもランクインできなかった橋

浮庭橋、梅檀木橋、錦橋、戎橋、夢舞大橋、飛翔橋、
浜中津橋、豊里大橋. . . など

それぞれの橋の詳しい情報を確認されたい方は
大阪市 HP「橋の紹介」をご覧ください。

1位の難波橋、2位の水晶橋は不動の強さを見せています。また、令和元年度に8位であった港大橋が、今回3位に急上昇しました。大きさによる迫力が人気を集めている要因のようです。結果、令和元年度には3位であった淀屋橋は惜しくも4位となってしまいました。その他、初めて名前が挙がった橋も多数存在しており、今後の動向が気になるところです。